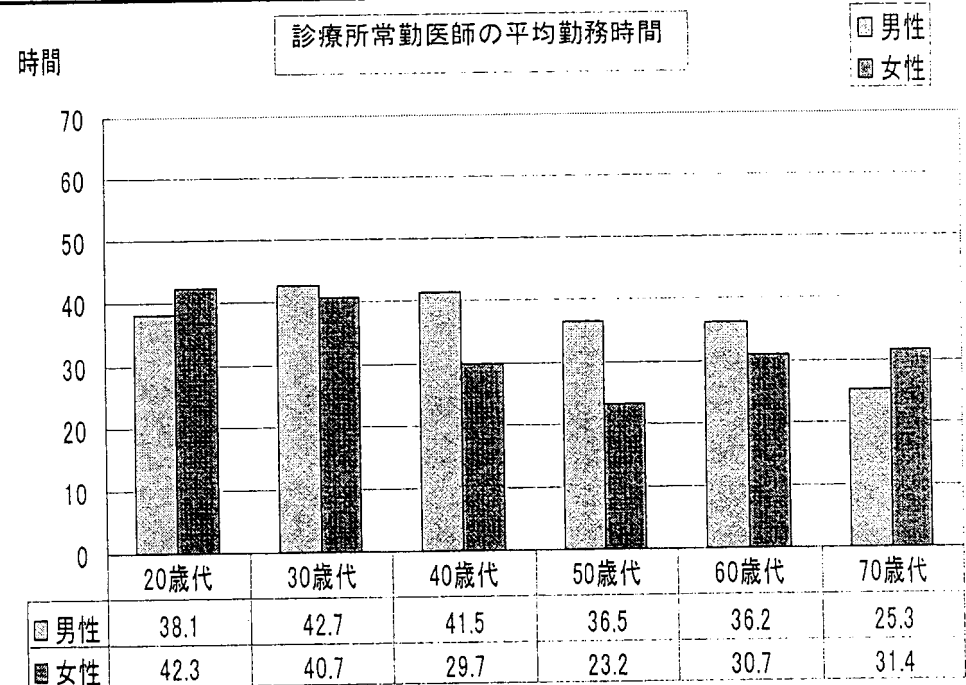
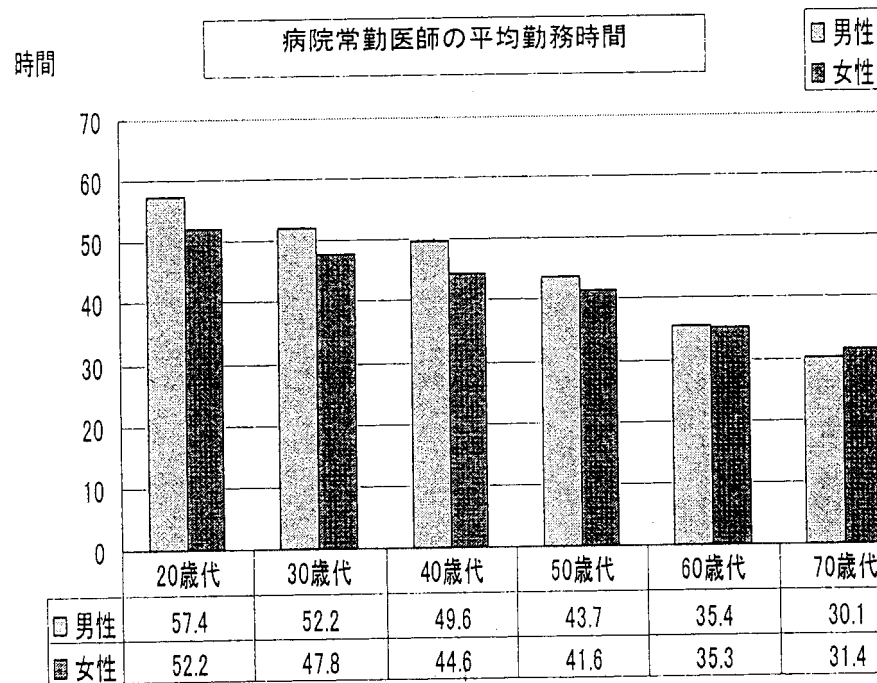


「医師需給に係る医師の勤務状況調査」による医師の勤務時間

- 医師の勤務時間について調査を行い、233病院から、病院常勤医師4077人の有効回答を得、650診療所から、診療所常勤医師536人の有効回答を得た。
- 医師が医療機関に滞在する時間のうち、診療・教育・会議等の時間を合計し、休憩時間・自己研修・研究等を除いたものを勤務時間とすると、年齢階級別の勤務時間は下記の通りであった。
(病院常勤医師の平均勤務時間は平均で週48時間であるが、診療所常勤医師の平均勤務時間は平均すると週40時間を下回っている。)
- 休憩時間や自己研修・研究等に充てた時間を含めた滞在時間を勤務時間とすると、病院常勤医師の場合、平均すると合計で週63.3時間であった。

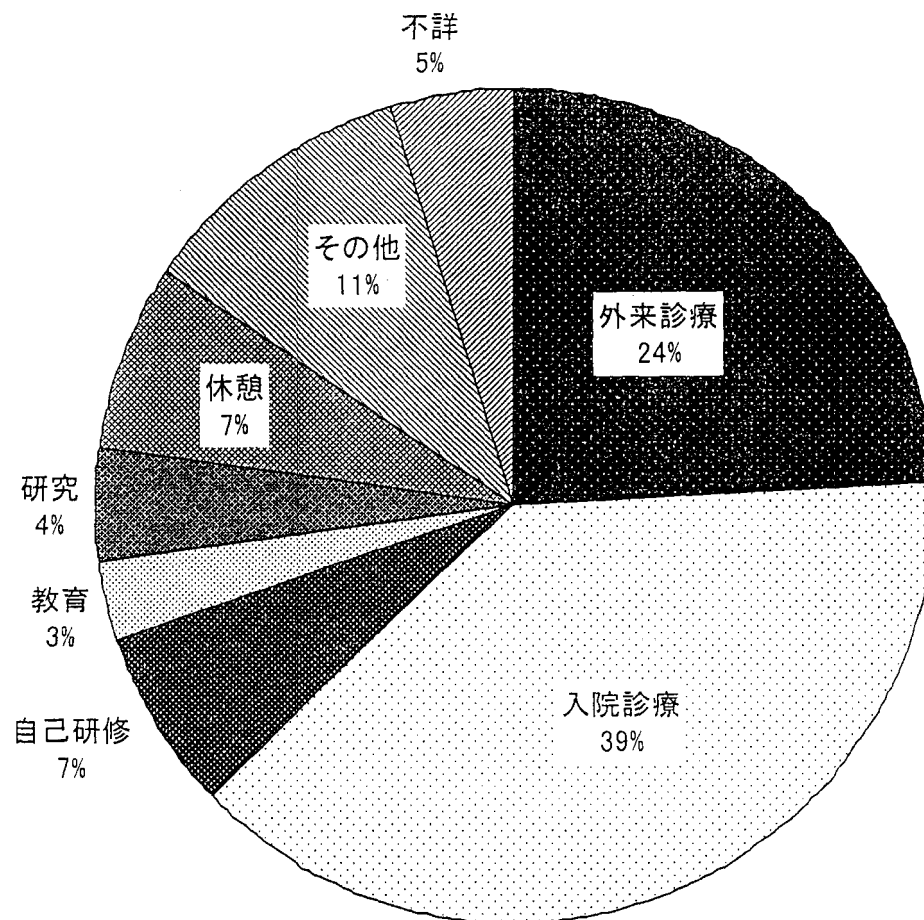


平成18年3月 医師需給に係る医師の勤務状況調査

(調査期間は、平成17年末から平成18年初頭のうち任意の1週間である。) 11

病院勤務時間(自己研修、休憩等を含めた滞在時間)の内訳
(常勤のみ)(勤務時間毎の平均時間/週)

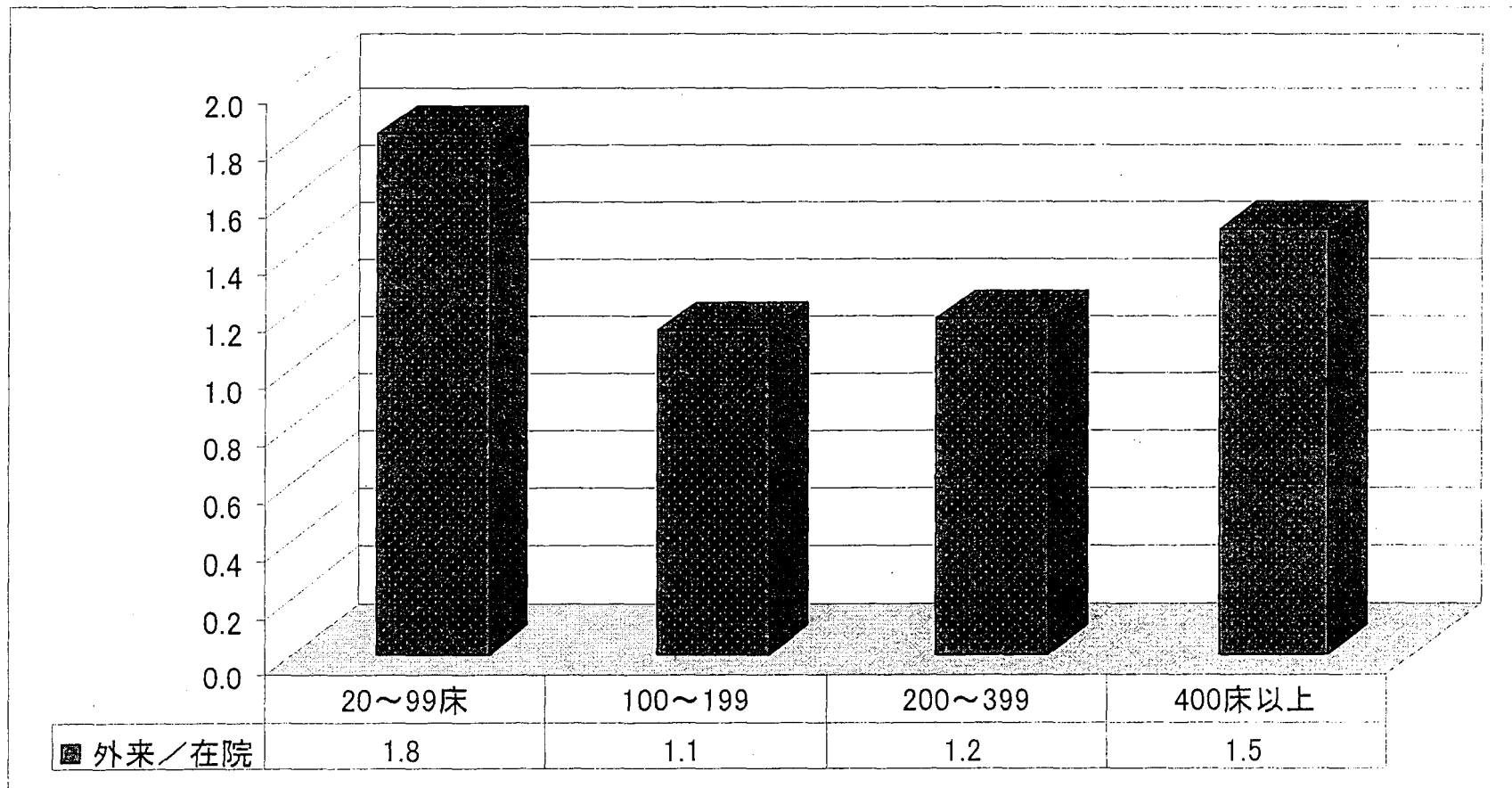
	勤務時間
外来診療	15.3
入院診療	24.4
自己研修	4.4
教育	2.0
研究	2.7
休憩	4.7
その他	6.8
不詳	3.0
計	63.3



平成18年3月 医師需給に係る医師の勤務状況調査

病床規模別の外来患者／在院患者について

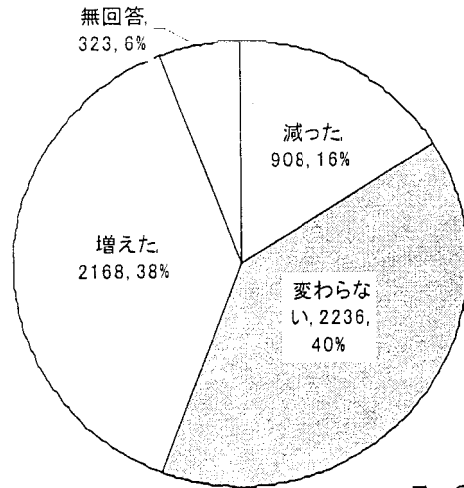
- 診療所の規模に近い医療機関については、1日当たり外来患者／在院患者は大きいものの、400床以上になると病床数が多くなるにつれ、外来患者／在院患者が大きくなり、大規模な医療機関になるほど外来患者への対応が多くなること示される。



平成17年 医療施設調査

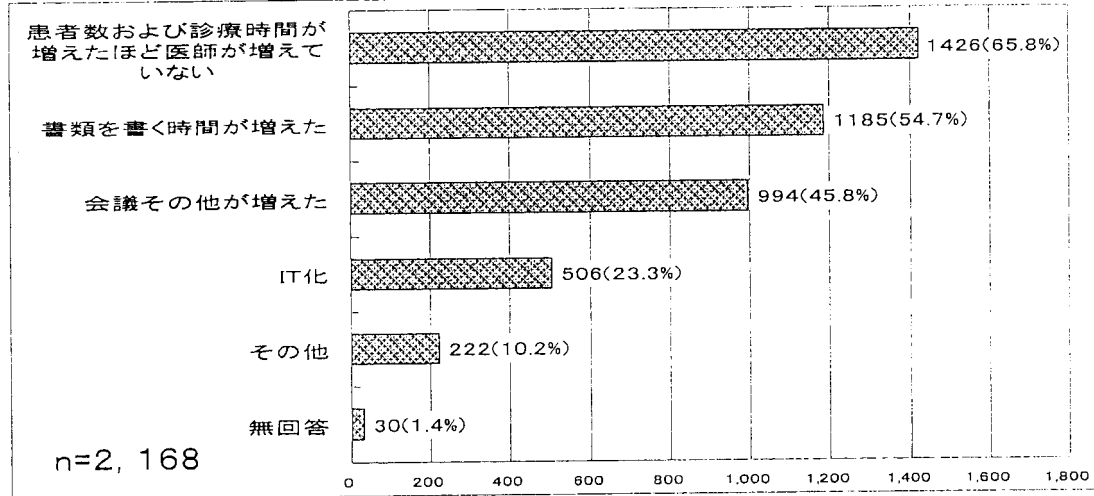
病院勤務医の負担が増えた理由

5年前と比較した勤務時間



n=5,635

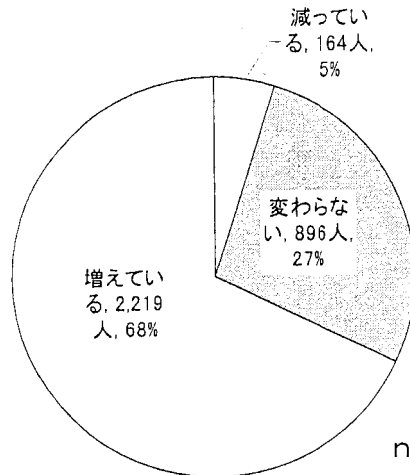
増えている理由



n=2,168

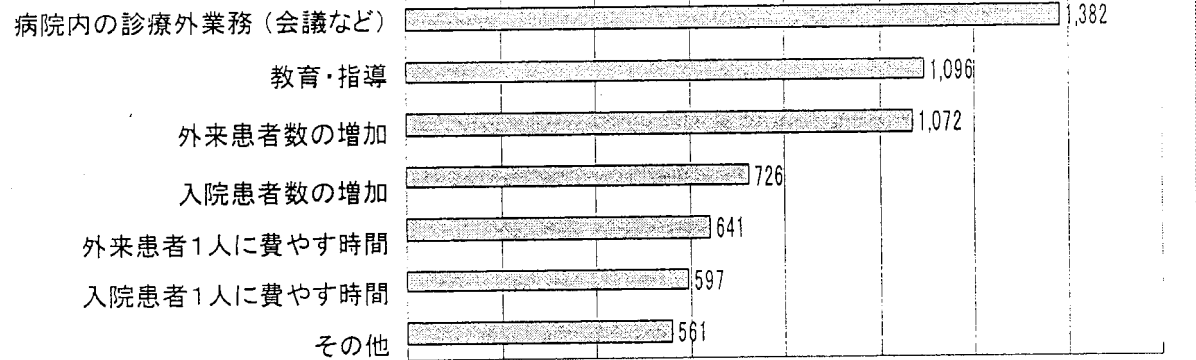
平成19年3月 日本病院会 勤務医に関する意識調査報告

3年前と比較した勤務負担



n=3,279

増えている理由

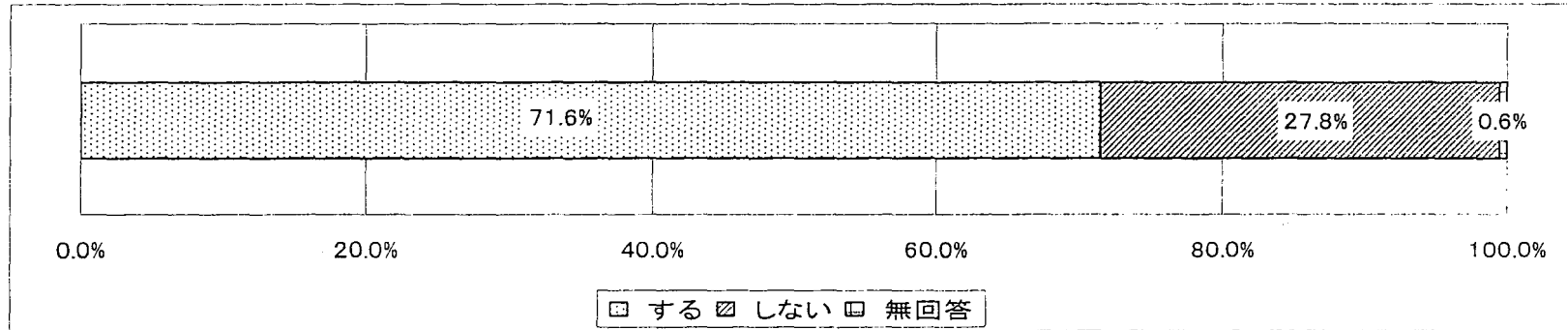


n=2,219

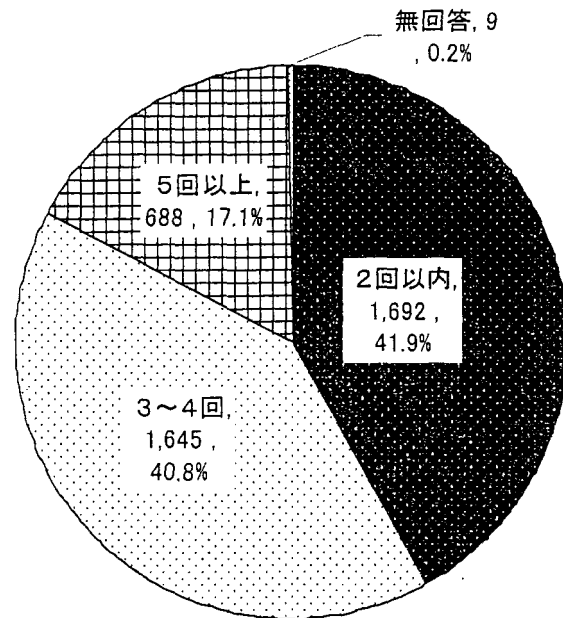
平成18年3月 医師需給に係る医師の勤務状況調査（中間報告2）

夜間当直の状況

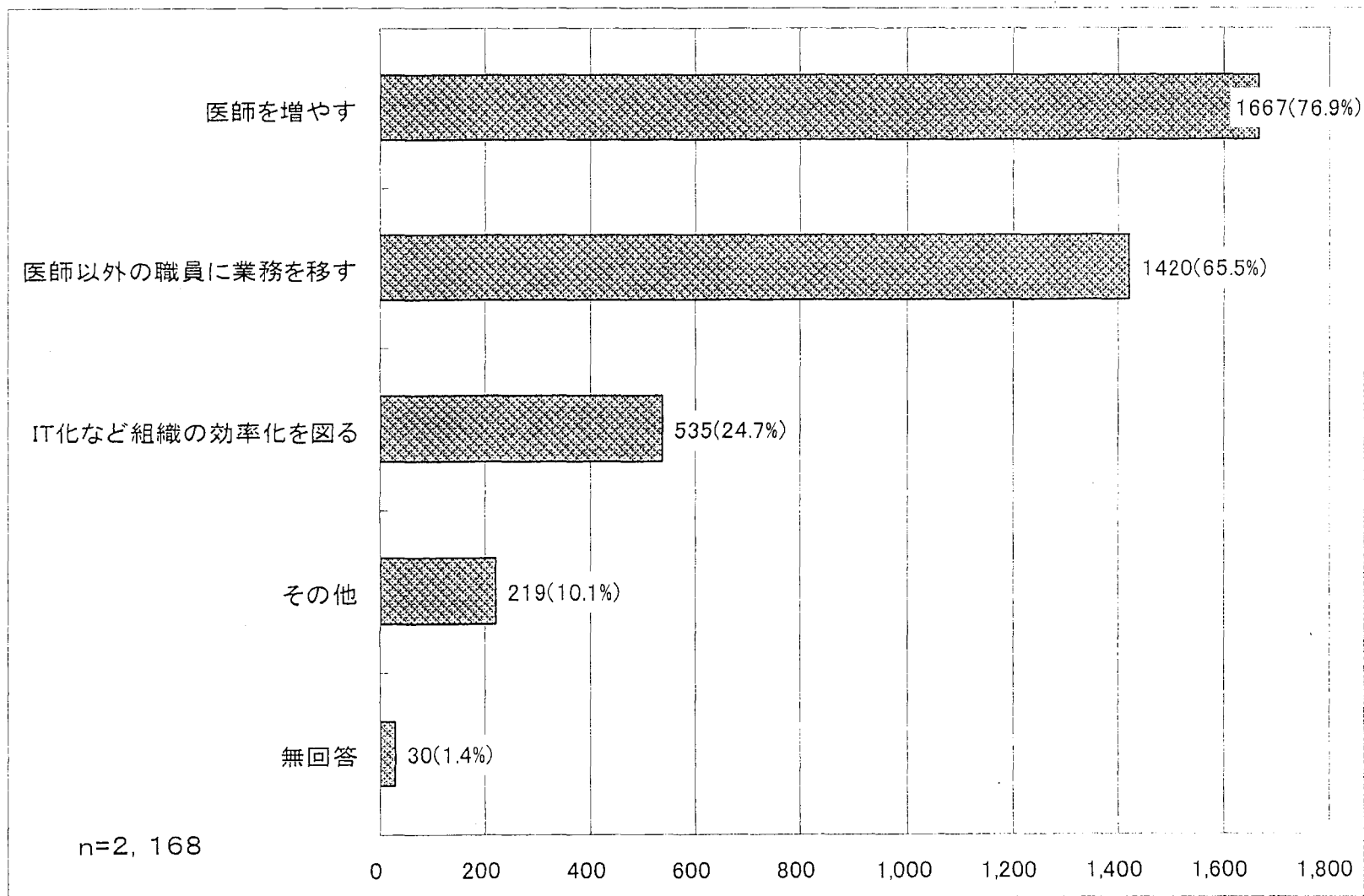
夜間当直の実施割合 n=5,635



夜間当直の実施回数（1ヶ月平均回数）



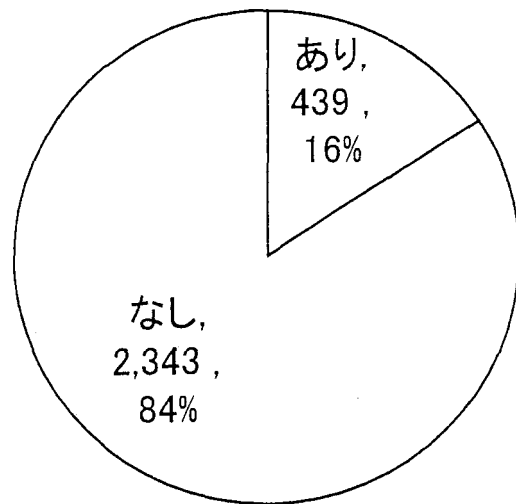
勤務医の負担を減らすにはどうしたらよいか



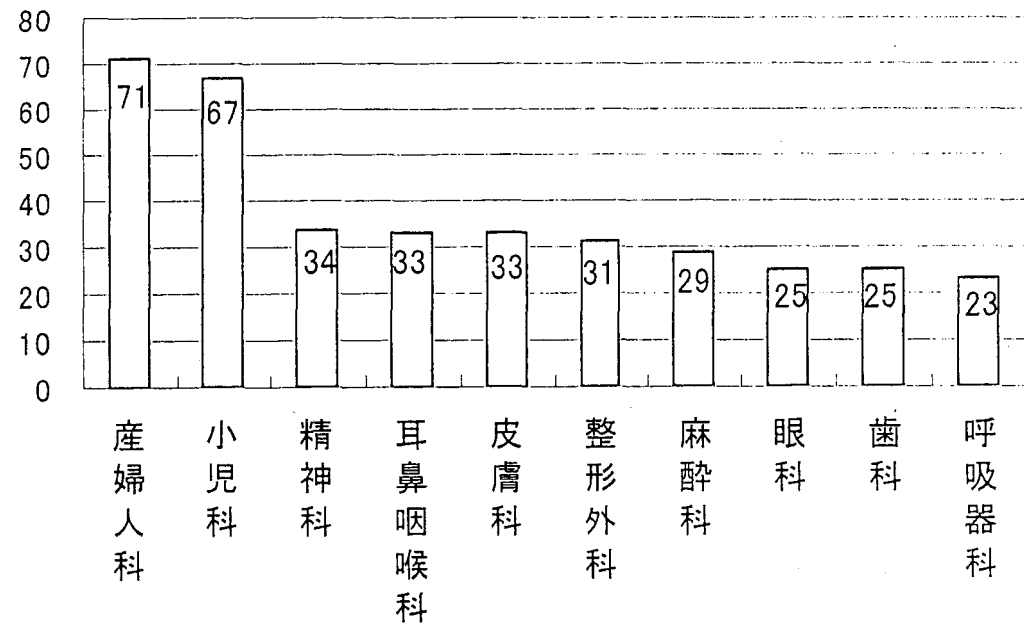
平成16年度以降に休止した診療科の状況

○ 回答のあった2,782病院のうち、平成16年度以降に診療科を休止した病院は439病院(16%)であった。診療科別にみると、産婦人科(71件)、小児科(67件)が多かった。

平成16年度以降に休止した診療科



平成16年度以降に休止した診療科(上位10件)



救急について

救急医療体系図

救命救急医療(24時間)

- ・救命救急センター(186カ所)
- ・新型救命救急センター(16カ所)

平成19年3月31日現在

- ・総合周産期母子医療センター(64カ所)
- ・地域周産期母子医療センター(210カ所)

平成19年4月1日現在
(未熟児等)

入院を要する救急医療(休日・夜間)

- ・病院群輪番制病院(408カ所)
- ・共同利用型病院(10カ所)

平成19年3月31日現在

入院を要する小児救急医療(休日・夜間)

- ・小児救急医療支援事業(144地区)
- ・小児救急医療拠点病院(28カ所(60地区))

平成18年9月1日現在

初期救急医療(休日・夜間)

- ・在宅当番医制(654地区)
- ・休日夜間急患センター(511カ所)

平成19年3月31日現在

小児初期救急センター

小児救急に関する電話相談(休日・夜間)

小児救急電話相談事業(41カ所)
「#8000」

平成19年9月1日現在

大人の救急患者

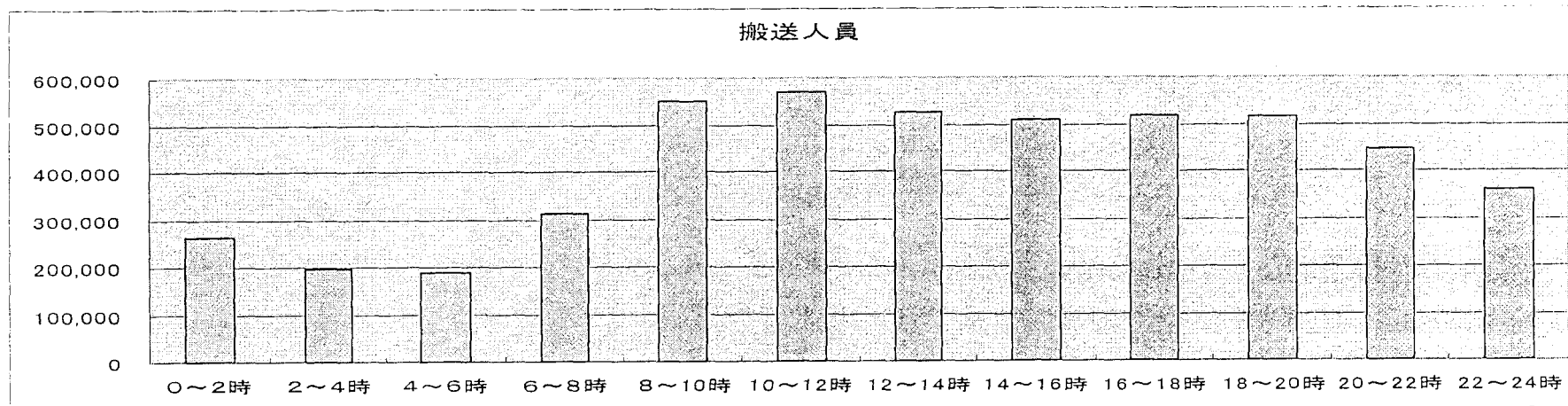
子どもの救急患者

救急医療の現状①

救急自動車による搬送人数の増加と軽症者の割合

救急自動車による搬送	平成8年度	平成11年度	平成14年度	平成17年度
全搬送人員	3,247,129	3,761,119	4,331,917	4,958,363
軽症者の数	1,628,072	1,886,784	2,219,052	2,579,910
軽症者の割合	50.1%	50.2%	51.2%	52.1%

救急自動車による搬送人員のうち軽症者の割合は約半数を占め、10年間で軽症者数は、全搬送人数の増加に伴い約95万人の増加となっている。



覚知時刻による搬送人員は、18時以降も通常の診療時間帯と同様に多い。

救急医療の現状②

救急医療に関する施設整備の推移

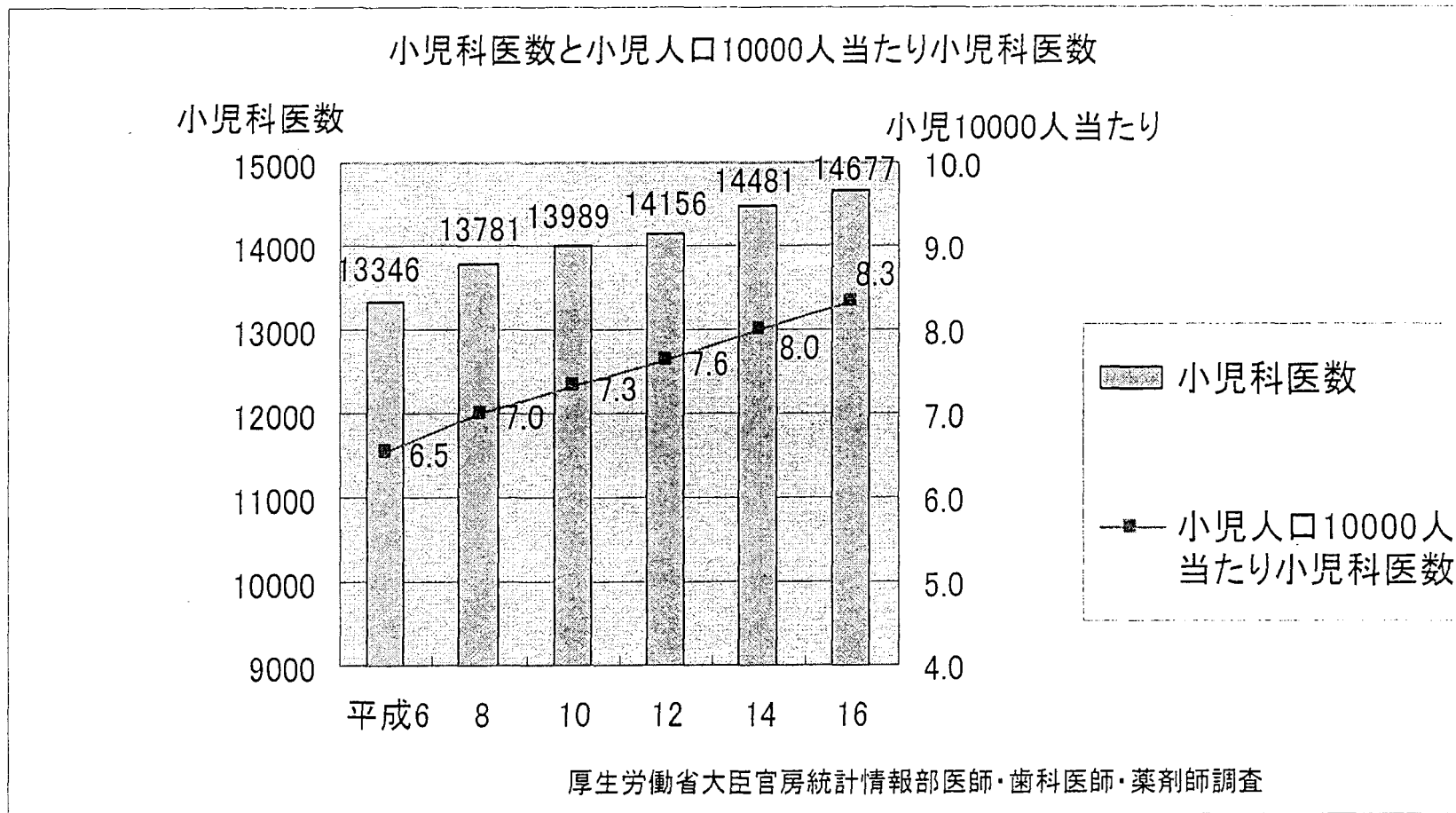
	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
初期救急 (休日夜間急患センター)	504	509	510	512	508	511
初期救急 (在宅当番医制実施地区数)	678	686	683	677	666	654
入院を要する救急 (施設数)	3,289	3,271	3,253	3,228	3,214	3,153
入院を要する救急 (輪番制地区数)	403	403	403	411	411	408
救命救急センター	160	165	165	178	189	201

救命救急センターは増加傾向にあるものの、他の施設についてはおおむね横ばい状態である。

小児科について

小児科医数と小児人口10,000人当たり小児科医数

平成10年から平成16年において、小児科医数及び小児1万人あたりの小児科医数は増加している。都道府県別にみても、ほぼ全ての都道府県で増加している。



小児救急医療拠点病院に勤務する小児科医師数と勤務時間

小児科医師1人あたりの1ヶ月あたりの勤務時間数（平成17年11月）

